

令和3年度 第1回志布志市総合教育会議 議事録

1 開催日時 令和3年5月19日(水)
開会 午前9時58分 閉会 午前10時57分

2 場 所 志布志市役所 志布志庁舎4階 庁議室

3 報 告

- (1) 小中一貫校の在り方について
- (2) 特認校の検証について
- (3) 学校規模の現状について
- (4) 総合教育会議設置要領改正について

4 協 議

5 出席者 (出席構成員)

志布志市長 下平晴行
教育長 福田裕生
教育委員 松原治美
教育委員 島津陽亮
教育委員 津町千代子
教育委員 益田裕子

(事務局)

副市長	武石裕二
総務課長	北野 保
総務課長補佐	黒石直也
教育総務課長	萩迫和彦
教育総務課長補佐	児玉雅史
教育総務課長補佐	
兼施設係長	福元義仁
学校教育課長	上木勝憲
学校教育課参事	
兼指導係長兼指導主事	吉永秀和

学校教育課参事兼指導主事 上之園善孝
生涯学習課長 江川一正
生涯学習課長補佐
兼生涯学習係長 河野尚仁

6 会議の経過

午前9時58分 開会

○ 開会

○ 市長あいさつ

【下平市長】

本日は、御多用中にもかかわらず、令和3年度第1回志布志市総合教育会議に御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃から教育行政の推進につきまして、格別なる御理解と御協力をいただいておりますことに、改めて厚く御礼申し上げます。

さて、皆様、御承知のとおり、この「総合教育会議」は、首長と教育委員会が、お互いの連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進していくために定められたもので、総合的な教育の運営方針、重点的に講ずべき施策等について、この会議の中で協議しながら、本市における教育政策の方向性を共有し、一致して執行に当たるものでございます。

今回の会議につきましては、「小中一貫校の在り方について」、「特認校の検証について」、「学校規模の現状について」、「総合教育会議設置要領改正について」の報告を受け、委員の皆様方と議論したいと考えております。

本日も、皆様方の御意見をいただきまして、十分に意見交換を行い、実りある総合教育会議にさせていただきますことをお願い申し上げます。私の挨拶といたします。本日はどうぞよろしくお願いたします。

○ 報告

【黒石総務課長補佐】 それでは、会次第3 報告に入りたいと思います。

まず、「(1)小中一貫校の在り方について」の報告をお願いします。

(事務局より資料に沿って報告)

【黒石総務課長補佐】 続きまして、「(2)特認校の検証について」の報告をお願いします。

(事務局より資料に沿って報告)

【黒石総務課長補佐】 続きまして、「(3)学校規模の現状について」の報告をお願いします。

(事務局より資料に沿って報告)

【黒石総務課長補佐】 続きまして、「(4)総合教育会議設置要領改正について」の報告をお願いします。

(事務局より資料に沿って報告)

○協 議

【下平市長】 協議につきましては、先ほど報告されました議題について行いたいと思います。

それでは、まず、(1)小中一貫校の在り方について、御意見、御質問はありませんか。

【松原教育委員】 小中学校に行きますが、伊崎田学園には統括校長がいらっしゃるし、連携がうまくとれているし、職員同士の9か年を見越したいろいろなことについて報告を受けます。その中で学園が始まって、人数の変化があまりない、大きく増えてこない現状の中で、先生方が一丸となって学校経営をしていただいて、外部から行かせたい学校、行きたい学校となって、魅力的な学校という評価を受けるようになってもらいたいと思っています。地元でなかなか人が集まらないとすれば、伊崎田も定住促進で住宅を建設し、住宅地を広げて、人数を保っているのだと思います。特認がいいのか、希望される方がいれば自力で送迎しますよという人たちを受け入れる形になれば、人数が増えてくるのかなと思います。と

いうのも、中学校の今度の入学した子どもたちの中では男子が12～13名、女子が3名程度しかいません。クラスの中でも女子が3名です。中学校である人数はどうかと思います。できれば希望する人たちの入学を認めてはどうかと思っています。皆さんがどうお考えなのかお聞きしたいと思っています。

【下平市長】

今の御意見について何かありませんか。

【松原教育委員】

ここで結論を出す話ではないと思いますが、こういう考え方もありだと思って、地域の方も熱心ですので、成功事例という形で高く評価していただいて、頑張ってもらえると他の地域にも波及するのではないかと考えています。私は松山出身ですが、松山も厳しい状況になってくると考えると、そのような展開もありかなという気がします。いろいろ考えてもらえたらと思います。

【福田教育長】

松原委員の方から御意見がありました。小中一貫型の伊崎田学園を設立する際の事前協議の中でも、将来的にもそういう方向性もどうなのかといった声が少しあったのも記憶しているところです。一昨年の総合教育会議の中で、この件が議題となったという記録を読ませていただきまして、他校区の生徒も受け入れてはという意見もあったところです。私としましては、できる、できないを含め、実施するのではあればどんな形でといったところの準備作業を具体的に行っていく時期に来ているのではという気持ちはあります。

【下平市長】

平成21年に小中一貫校について一般質問をしています。私は薩摩川内市へ研修に行って、説明にもありましたとおり、中1ギャップ、心身の発達ということと、小中学校間の教員の連携など、学力観、教育観の相違といったことから小中一貫校ができないのか質問した経緯があります。説明の中で、これから小中一貫が望ましい、取り組む必要があるということでしたが、統廃合の関係もありますので、そのことも含めて取り組んでいくべきではない

かと思っているところです。教育長も言われたとおり、今準備をしていく前段ではないかということであれば、説明がありました伊崎田学園の実績を踏まえて、どういう形での一貫校が良いのか取り組んで、また、仮の話ですが、例えば松山地域にすれば泰野地区に松山中学校がありますので、そこに小中一貫校を設置して、新橋地区の松山小学校、尾野見地区の尾野見小学校を一箇所を持ってくるのはどうなのかなと思っています。ここをモデルとしての小中一貫ができないのかと。一つは地域コミュニティ協議会が新橋地区にはできています。松山小学校もその地域の拠点として活用することができます。尾野見地区にしても、これから3地域がありますが、そういったことも踏まえて、あくまで仮定の話ですが、どうなのかなと思っています。一つは学校統廃合とは小学校、中学校も含めて人数がある程度いないと、子どもたちが将来大きくなったときに団体生活含めて、いろいろなことに、教員の資格のことも含めて、いろいろなことが考えられますので、モデル的なものも含めて取り組む体制づくりが必要ではと考えてはいるところです。

【下平市長】

その他に御意見はありませんか。なければ、(1)小中一貫校の在り方については、そのような形でいきたいと思えます。

【下平市長】

それでは、続きまして、(2)特認校の検証について、御意見、御質問はありませんか。

【島津教育委員】

私は以前の定例教育委員会等でも、スクールタクシーの件について、いろいろと課題を聞いて、これはやっぱり受益者の方に負担していただくべきではないかと思っているところですが、このこともいろいろな方の意見を聞くと、なかなか前に進まないのではないかと思うところもありますので、早急にいつまでにどうするかの方性を決めて、やった方がいいのではないかと思います。

【下平市長】

ありがとうございます。他に御意見はありませんか。特認校が

始まったのは、学校をなくさないための手立てでした。何も考えていなかったと思います。学校を存続させるということですが、経費負担も年々大きくなっています。そういった面では島津委員が言われたように、外からはいろいろな声が聞こえてくるわけです。負担は1,000万円を超えています。逆に山間部の方から市街地の方の学校に行っている生徒たちもいます。そのこととの整合性の問題もあります。この制度ができたのは、学校をなくさないための取り組みであったと思っています。

また、子どもたちの人数についても、学校があることで地域がどうかなるということではなくて、子どもたちが将来どうなのかを考えて、取り組みをしていくべきではないかと思っています。

このことについて、何か御意見ありませんか。

【津町教育委員】 他の学校でも人数が減少していますので、特認校制度については、考えていけないといけない時期なのかなと考えています。

【下平市長】 説明がありましたとおり、増加しているのは3校だけで、その他は減少していく状況です。

【福田教育長】 この特認校制度が始まった経緯等を紐解くと、かなり早いペースで過疎化が進んでいたこの3校区において、学校の存続をしながら、どう活性化させるかということが最大の目標となる中、財政的な支援をしていきたいと思いますとか、制度を設けて市内の児童がある一定規模の学校から通学できるような制度にしましょうと、途中、途中で状況に応じて、修正を加えながらやってきたというのがあるわけです。そのような中であって、当初は送迎等についても無償で来ていますが、それから10数年経過して、状況としては市全体でもかなり変わってきているところもありますし、保護者、一般市民の方々の現状に対する思いもあるというのも、いろいろな所から聞こえてきています。これもどんな風に進めていくのか、今のままでいいということではないだろうと捉えていますので、今後、何年先になるか分かりませんが、段階的に現在通学

させている方々の思いをくみ取りながら、他の一般市民の方々の思いもくみながら、より良い制度として考えていく必要があると思います。そして、将来的には全市的に児童は減少していきますので、その中であって、本市としての学校の規模、数といったものがどこに落ち着きどころを持ってきた方がいいのかなど様々な角度から調査研究をしていく必要があります、その準備にかかっても良い時期なのではと思っています。

【下平市長】 やはり統廃合との関係があると思いますので、そのことも含めて取り組みをしていった方が良いのではないかとと思っています。

【益田教育委員】 田之浦小学校、森山小学校、潤ヶ野小学校の昨年の6年生は進学すべき中学校に進学しているのか、特認校で学んだことを進学すべき中学校で発揮できているか気になります。

【下平市長】 状況は分かりますか。

【福田教育長】 特認校を卒業した児童の大規模校の中学校での適用状況は分かりますか。

【事務局】 校内研修等で小規模校を訪問しますが、子どもたちは自ら学ぶ意欲をもち、自分の思いを発信している姿を見ることができます。中には一人学級もありますが、中学校に進学したときに自分の思いをしっかりと伝えられるよう特認校の先生方は常に意識して取り組んでおられます。子どもたちは相当な力をもって卒業しますので、進学先でもその力を発揮していると思われれます。

【下平市長】 他にはありませんか。なければ、(2)特認校の検証については終了します。

【下平市長】 続きまして、「(3)学校規模の現状について」ですが、総合教育会議は、原則として公開することとなっておりますが、会議の設置

要領第6条第3項で、公益上特に必要がある場合には非公開とすることができる」と規定しておりますので、この協議案件につきましては、皆様からさまざまな御意見をいただくために非公開での協議として、議事録には掲載しないようにしたいと思います。皆様、それでよろしいでしょうか。

委員から はいの声あり

協議については非公開

協議については非公開

【下平市長】

続きまして、「(4)総合教育会議設置要領改正について」ですが、

皆様から御意見や御質問はありませんか。

【松原教育委員】

資料に2回開催するものを必要に応じてという形に改正すると記載されていますが、総合教育会議は市長と教育委員とが自由に意見交換ができる場だと認識しています。教育現場は文部科学省からの通知などにより変化が多い中で、子どもたちにとっても学校現場にとっても、学級数や子どもの数をどうするのか、30人学級、着替えの場所、いろいろな障がいを持っている子どもたちの送迎に係る費用、エレベーターの設置学校への転校など、いろいろな課題があります。半年に1回とは言いませんが、自由に発言できる場として、また、市長の教育行政の方向性に対する考え方などを聞かせてもらえる場として、定期的を開催してもらえたらと思っています。教育委員という責任ある立場で定例教育委員でも議決を行ったりするわけですから、情報収集をした上で責任を果たしていきたいという思いがありますので、開催を必要に応じてということにはひっかかりを感じます。

【事務局】

昨年度については、説明にもあったようにコロナ禍において開催が難しかったということで、要領で2回開催すると規定していますが、昨年度のような状況が発生した場合を想定していなかったと思っています。今回の議題も引き続き協議をしていく必要があると思いますので、2回という文言はなくなります。2回、3回と必要に応じて開催していく方向で考えています。昨年度のような状況があったため、要領については改正させていただきたいということです。開催については定期的を実施していきたいと考えています。

【下平市長】

今、説明があったとおりです。逆に開催しなかった場合、何故開催しなかったのかと説明が必要となります。基本的には説明があったとおり、状況に応じて、それ以上のことをしていきたいと考えています。

【松原教育委員】 私が言いたいのは、事案が発生した時のみの開催になるのでは
と思ったからです。この会議で何か決まるわけではないですが、
市長の方針を聞くことができたり、市長に対してお願いができた
りするなど、市長と直接話ができる場を残していただきたいと思
ったからです。先ほどの説明で理解しました。

【下平市長】 しっかりと対応していきたいと思います。他に御意見ありませ
んか。なければ、改正案のとおり設置要領を改正します。

【下平市長】 以上で協議を終わります。御協力ありがとうございました。

○ その他

【黒石総務課長補佐】 それでは、会次第の「5. その他」についてですが、皆様方
から協議事項も含めて何かございますか。

○ 閉会

【黒石総務課長補佐】 それでは、皆さん御起立ください。

以上をもちまして、令和3年度第1回志布志市総合教育会議
を終了させていただきます。

午前10時57分 閉会

会議録署名

志布志市長

下平晴行

教育長

福田裕生

教育委員

松原岩美

教育委員

島津陽亮

教育委員

津町千代子

教育委員

益田裕子